

1、当事者 部会

部会長 成竹精一 副部会長 小林美彦 長岡純人 堀内宗喜 北村準一
運営委員会担当者 荒井裕子 ケアマネ連絡会担当者 田中みどり 小山多恵子
長野市障害福祉課担当者 牧野育夫 松田敏彦 松平純子

1、年間テーマ

障害の理解・啓発、他障害の理解

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
8	11	市役所	11名	今年度の年間計画 緊急事態宣言下の生活	当事者部会今年度の年間計画 新型コロナウイルス緊急事態宣言 下の当事者の生活い状況を共有
9	15	市障害者センター	21名	長野市における今後の 権利擁護について	けんり部会と合同による学習会 ・ 障害者に対する差別の定義 ・ 障害のある女性に対する差別 ・ 障害者の権利条約の 日本政府報告
11	17	市障害者センター	15名	障害福祉サービスについて	障害者総合支援法と障害福祉 サービス について
2	16	市障害者センター	17名	今年度のまとめ	今年度の活動の振り返りと 来年度について

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

4、課題について

(1) 主な検討課題

- 長野市障害者基本計画、障害者差別解消法施行後の動向について
- 長野県「障がい者共生社会づくり条例」の動向について
- 障害の理解・啓発、他障害の理解。そのための情報共有（特にほっこり事例）
- 障害当事者の防災対策
- ふくしネットフェスタへの積極的参加と当事者部会の周知と参加呼びかけ
- 当事者同士の理解と交流をはかるための交流会開催

(2) 検討の目的と結果（現状）

- 新型コロナの感染拡大の影響により、部会開催時期が8月からになり、夜の部会を中止して、昼だけの開催にしたり冬の第3波の感染拡大により急遽中止したり、当初計画した通りにできず、コロナに振り回された1年となってしまった。
- そのなかで新しい試みとして、けんり部会との合同開催や障害福祉サービスについての公開講座を開催できたことは評価できる。
- 新型コロナの感染対策をテーマに開いた部会において、それぞれの障がいによって対策も困りごととも違うという事をあらためて共有できた。
- 長野市における権利擁護をテーマに開いた部会において、まだまだ身近なところでも障がい者の権利をないがしろにされる事例があるということ。それに対してどのように対処するべきかこれからも考える必要があるという事を再認識できた。
- 外出自粛や部会の回数も減少した中でも、「ほっこり話」は毎回のように報告していただいていた。
- 長野高専から、アンケートの協力依頼がありふくしネット全体に協力を依頼することができた。

(3) 引き続き検討が必要とされる課題

- 長野県「障がい者共生社会づくり条例」がなかなか制定されないなかで、権利擁護について情報交換・情報共有をしていくことの重要性を感じる。
- 防災対策について、これからもさまざまな災害が起こる可能性があるなかで、障がい当事者自身の意見を盛り込んだ対策を立てていくための取り組みを続けていく必要性を感じる。
- 「ほっこり話」に関しては、新しい話を聞くたびにほっこり癒される気持ちにいただいている。これまでの話をまとめて冊子にするなど、より多くの方々に伝えられるような取り組みを考えていきたい

(4) 部会の運営体制について

- 運営委員会より、ふくしネットの体制の中で当事者部会の役割や位置づけをどのようにしていく事がよいか相談があった。様々な障がい当事者または関係者が集まる当事者部会のあり方を来年度は検討していきたい。

5、総括（1年間を振り返って）

- 本年度は、ただただ新型コロナウイルスによる影響で、ろくに活動できなかった1年であった。
- そのなかで、一年間をつうじて様々な事業・政策に「障がい当事者の意志や意見を伝えて反映させていく」ことの重要性を感じさせられた場面が多かったように感じる。
特に2021年1月31日に配布された「県からのたより」に関しては、事前に当事者への確認がされていれば、防げていた問題ではなかったか。「私たちのことを私たち抜きで勝手に決めないで！」（**Nothing about us without us!**）というスローガンをもう一度肝に銘じて活動にいかしていきたい。